



2004 事業報告書

OSG CORPORATION
オーエスジー株式会社
証券コード 6136



ごあいさつ

平素は、皆様より格別のお引き立てを賜り厚くお礼申しあげます。

ここに、当社の業務内容及び活動状況をとりまとめましたので、当社に対するご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

私どもは、経営環境に大きく左右されず、持続的な成長を図り、株主をはじめとするステークホルダーに報いるため、「地球会社戦略」を推進しています。

日本の自動車産業の海外への進出に代表されるように、経済のグローバル化が急速に進んでいます。グローバル化への対応は、工具メーカーにとりましても、今後の事業の成長にとって最も重要なテーマのひとつです。

「地球会社」という理念のもとに、36年以上にわたって世界中に築いてきた子会社・関連会社の一つひとつが、その力を発揮する時がやってきたと思います。

新製品の開発、人材の育成、サポート・サービス事業の充実を図り、持続的に成長可能な「精密機械工具の総合メーカー」を目指します。

今後とも、株主の皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申しあげます。

代表取締役社長

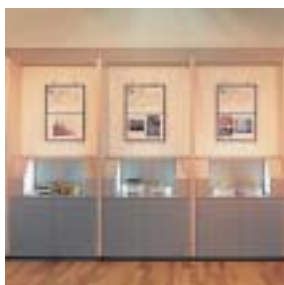
大沢輝秀



CSセンター



シアター



展示コーナー



ホール

OSGとは

当社の商号であるとともに登録商標でもあります。創業者大沢秀雄のO、SCREW(ねじ)のS、GRINDING(研削)のG、この三つの頭文字を組み合わせたものであります。

概要

商号：オーエスジー株式会社
 英文商号：OSG CORPORATION
 本社：愛知県豊川市本野ヶ原3-22
 設立：昭和13年3月26日
 資本金：104億4百万円
 (発行済株式数 98,955千株)
 従業員数：連結 4,012名 単独 1,566名

事業内容

切削工具・転造工具・測定工具・
 工作機械・機械部品の製造販売、
 工具の輸入販売。

取締役及び監査役

(平成17年2月19日)

代表取締役社長	大沢輝秀
専務取締役	大沢茂樹
常務取締役	小林督史
常務取締役	小林一仁
常務取締役	山崎憲雄
常務取締役	大沢吾平
取締役	石川則男
取締役	櫻井正俊
取締役	園部幸司
常勤監査役	加藤晃司
監査役	大森宏幸
監査役	松下 滋

執行役員

(平成17年2月19日)

執行役員	大沢勇四郎
執行役員	デイン ウインタース
執行役員	小野克比古
執行役員	鄭 台一
執行役員	吉崎壽高
執行役員	遠藤 徹

地球規模で広がるツール コミュニケーション



OSG SCANDINAVIA A/S



OSG U.K. LIMITED



OSG EUROPE S.A./OSG AIMO S.A.



海外ネットワーク

当社の主要顧客は自動車・家電メーカー等です。国内の自動車・家電メーカーだけでは需要に限りがあり、持続的な成長をしてゆくためには、潜在需要が大きい海外市場を対象にし、現地ニーズにあった製品の開発・販売を進めるべきとの考えにたち、1968年に、米国・シカゴに OSG Tap and Die, Inc.(OTD) 社を設立し、以来、海外展開を積極的に進めてきました。

近年では、中国における営業・技術部隊の増員、上海市松江区での工場竣工、イタリアの販売代理店を買収し現地法人化、米国に超硬特殊工具の製造会社 Cutting Tool Innovations, Inc.(CTI) を設立、さらに転造工具製造会社 Sterling Die, Inc.(SDI) を買収し、ネットワークの拡大をしています。

最適地生産と地球規模でのツールコミュニケーションの展開を図るとともに、各国の産業に貢献しております。



韓国OSG株式会社



欧士机(上海)精密工具有限公司



奥斯机(上海)精密工具有限公司



大宝精密工具股份有限公司



OSG TAP AND DIE, INC.



QUALITY CARBIDE TOOL, INC.



OSG/ROYCO, S.A. DE C.V.



OSG FERRAMENTAS DE PRECISAO LTDA.

連結営業報告

(平成15年12月1日～平成16年11月30日)

■ 営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、好調な輸出と旺盛な民間設備投資で、順調に回復をはじめました。90年代を通じて日本経済の低迷をもたらしてきた“過剰な債務・設備・雇用”などの問題に目処が立ち始め、事業再構築の一巡とともに企業が「攻めの経営」に転じ始めており、収益力や生産性を高めた企業部門が主導するかたちで景気拡大が持続する基盤は十分に整いつつあります。海外におきましては、原油価格の上昇などによる景気の不透明感がありましたが、中国経済の拡大、米国経済の回復で総じて拡大傾向にありました。

このような情勢のもとで当社グループは、生産の一層の効率化とコスト削減に向けて「埋蔵金」発掘活動に努力してまいりました。営業部門ではAW（オートワールド）室、開発室を中心に自動車産業、大手ユーザーのニーズの掘り起こしに注力し、前期に導入した提案型営業支援システム「OSキュービック」の本格的活用による「モノ売り」から「コト売り」へと営業スタイルを一新し、「提案型営業活動」の徹底を図ることで、ユーザーの信頼を得るとともに、新規ユーザーの開拓に効果を発揮しました。

アジア地域では、中国における自動車産業、金型産業に対するサポート体制の強化を目的として、上海、大連、広州、深圳、天津、重慶などの営業・技術部隊の増員をしました。また、上海市松江区に建設を進めていた工場が竣工、超硬工具生産が本格化しています。「世界の工場」になった中国が今後、生産技術および製品技術の高度化を志向する流れは加速すると予想され、当社グループにおいても、中国を中心としたアジア市場での売上拡大が今後の業績のけん引役となると期待しています。

欧州市場においてはイタリアの販売代理店の買収を終了し販路拡大に努めてまいりました。

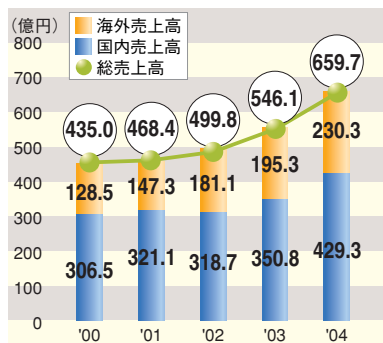
米国におきましては、2003年11月にCutting Tool Innovations, Inc.(CTI)を設立、2004年6月にはSterling Die, Inc.(SDI)を買収し、超硬工具や転造工具の広汎なニーズに対応できる体制を確立しました。

製品別には、「ハイス製品拡販セール」を行い、大幅な受注獲得につながりました。また、WX超硬エンドミルシリーズの商品群拡大や、卓越した競争力を有する深穴加工用ロングドリルの追加など、市場ニーズに迅速に対応しました。一方、小型ハードディスクドライブの急速な需要増加に伴い、当社が特許を有する特殊リセス形状の極小ねじ（マイクロ・スティックス）に対する需要が大幅に増加してきております。

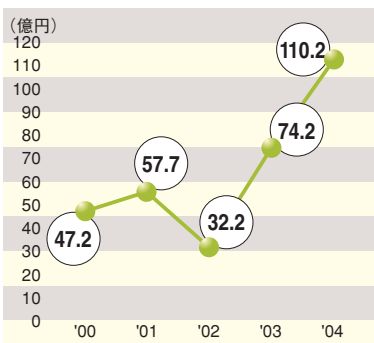
当社グループはこれまでと同様、ユーザーの生産効率を上げて、ユーザーに利益の出る加工方法をFace to Faceで提案していきます。また自動車産業を対象とした新製品開発では、より高度な加工に対応したドリル、超硬エンドミルなど高付加価値製品の充実に取り組んでいきます。

何卒、株主の皆様におかれましては変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

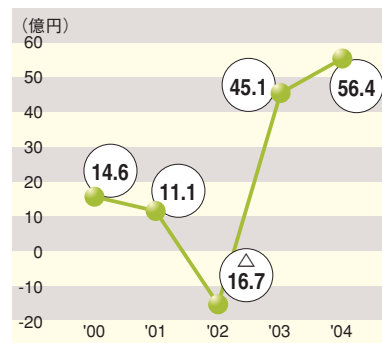
売上高



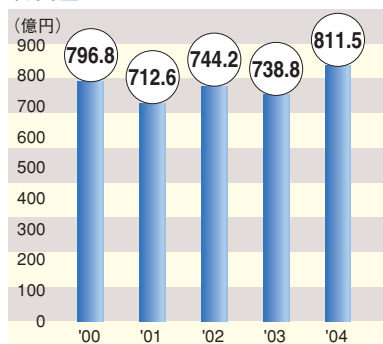
営業利益



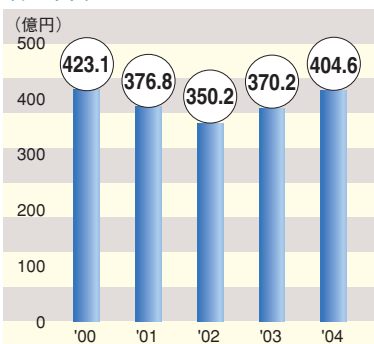
当期純利益



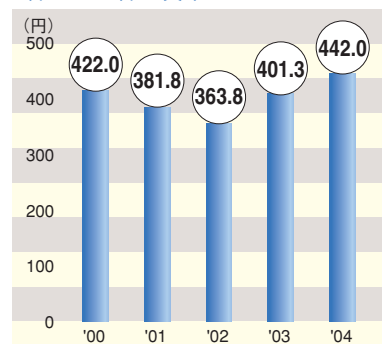
総資産



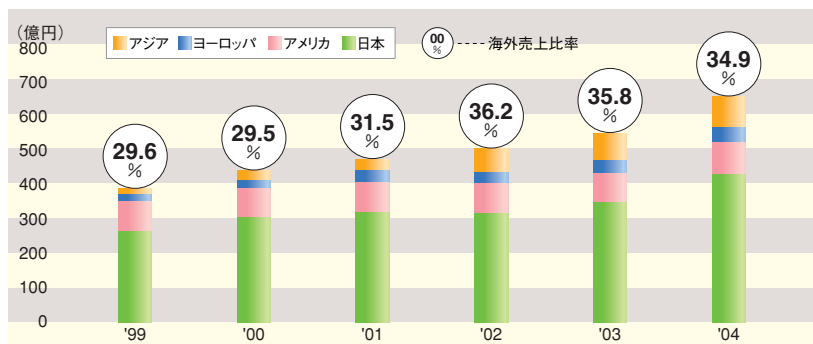
株主資本



1株あたり株主資本



地域別売上高



地域別概況

アメリカ

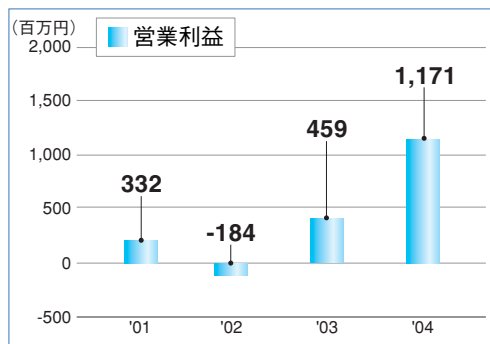
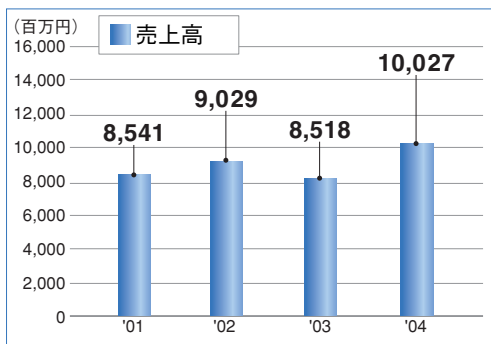
米国・ジョージア、メキシコ、ブラジルの3箇所でハイスピード・スチール工具の生産工場を有していましたが、工具の超硬合金化の流れを受けてハイス工具の需要が減退していたことから、2002年にジョージア工場を閉鎖し、ブラジル及びメキシコからハイス工具の供給を行う体制に変更しました。

一方、需要が拡大している超硬工具については、超硬工具の標準品を生産するQuality Carbide Tool Inc. (QCT) と、2003年に設立した超硬工具の特殊品を製造するCutting Tool Innovations, Inc. (CTI) を活用し、今後さらに売上を伸ばす計画です。

メキシコ、ブラジルの製造子会社においても米国向けに好調を維持した結果、増収増益となりました。

当期、米州での売上高は10億27百万円（前期比18%増）でした。また、固定費の削減および高付加価値製品への製品シフトが収益構造改善に寄与したことから、営業利益は、前期比7億12百万円改善（前期比155%増）し1億171百万円となりました。

●セグメント情報



アメリカ

ヨーロッパ

欧州では、ヨーロッパにおける営業拠点の統括会社 OSG Europe S.Aを中心に、EU地域に密着した活動を展開しています。

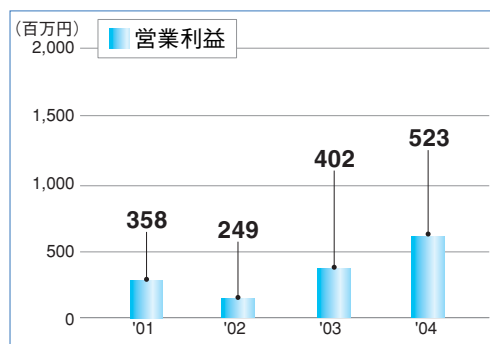
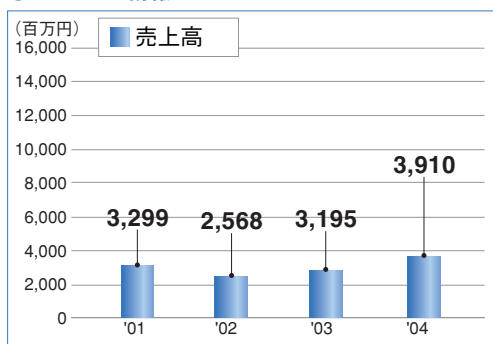
1997年からスタートした現地法人ネットワーク作りは、イギリスの OSG UK から始まり、ベルギー、オランダ、フランス、デンマーク、スペイン、ドイツ、そして2003年12月に設立した OSG ITALIA S.R.L. を数えると8カ国に及び、日系工具メーカー最大のネットワークを実現しました。

当社はこのネットワークを最大限に活用し、自動車関連市場、航空機関連市場、そして、金型業界などに積極的な営業活動を展開しています。また近い将来、東欧への営業基盤強化にも取り組んでいく所存です。

現在、タップなど主要製品の欧州でのシェアは5～6%程度ですが、早急に10%以上にしたいと考え、主要顧客である自動車関連ユーザーへは最新の切削工具技術を紹介する提案型営業を行っています。

当期の欧州における売上高は39億円10百万円（前期比22%増）、営業利益は5億円23百万円（前期比30%増）となりました。

●セグメント情報



■ヨーロッパ

地域別概況

アジア

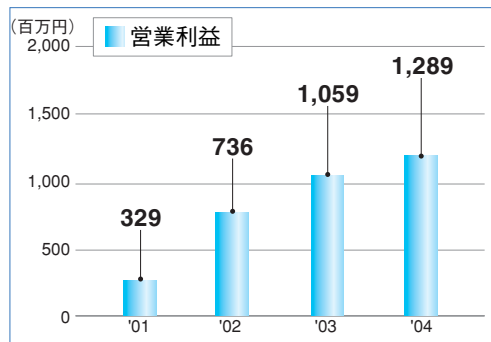
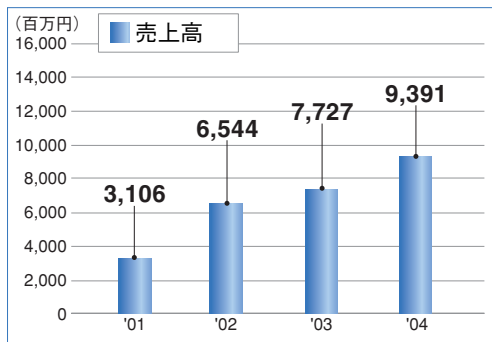
東南アジアでは自動車、二輪車の生産が拡大し、特に中国の自動車産業の生産台数は、2003年の400万台から、2009年には1,000万台に達するとも言われています。このような状況下、中国では製造業全般に工具の需要が拡大しています。特に自動車産業や金型産業では、高度な加工精度を要求される部品の生産が拡大しており、当社が得意とする高品質・高性能工具の需要が増大しています。

このような中、中国では、上海、大連、広州、深圳、天津、重慶などの営業拠点の整備を行いました。この結果、2001年9月に設立した「欧士机（上海）精密工具有限公司」の販売も軌道に乗りつつあり、当期における同社の売上高は前期に比較して96%増となりました。また、製造販売子会社「奥斯机（上海）精密工具有限公司」が上海市の松江工業区に建設を進めていた工場が2004年6月に竣工、超硬工具生産が本格化しています。

「世界の工場」になった中国が今後、生産技術および製品技術の高度化を志向する流れは加速すると予想され、当社においても、中国を中心としたアジア市場での売上拡大が今後の当社の業績のけん引役となると期待しています。タイ・シンガポールなどの東南アジア地域では、IT・デジタル関連やオートバイ、自動車関連などの産業が好調に推移しました。台湾においても、デジタル家電業界、IT業界、自動車業界の活況に支えられた旺盛な工具需要に対応すべく生産設備の増強を図りました。

当期のアジアにおける売上高は93億91百万円（前期比22%増）営業利益は12億89百万円（前期比22%増）となりました。

●セグメント情報



アジア

日本

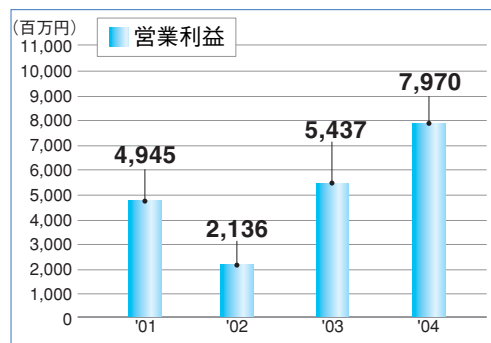
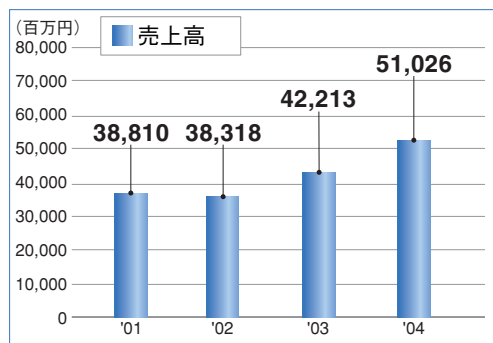
日本国内では、全国37箇所に営業拠点を持つほか、在庫センター3箇所、代行店53社、特約代理店444社、販売代理店1,843社の合計2,343社の販売網を有しており、このような地域経済に密着した強力な販売流通組織は、業界屈指であるとともに、長年築き上げた当社の最大の財産となっています。

国内の製品別販売シェアはタップが約50%、ハイスエンドミル47%、ハイスドリル16%、超硬エンドミル32%と、いずれも市場で大きなシェアを占めています。さらに、小型ハードディスク用の精密子ネジでもOSGは高いシェアを保持しつつあり、当期、売上全体に占める比率は2%にまで拡大し、月間2億円の売上規模にまで成長してきました。市場ではデジタル家電の新製品開発が今後も続くと思われ、さらに売上の拡大が見込まれています。

一方、新規事業として、当期、ネジ穴などの規格を検査するネジゲージのレンタル事業を開始しました。部品加工メーカーなどはネジに高い精度を求めるため、ゲージは不可欠ですが、使用頻度の低い製品を購入すると、在庫コストがかさむことから、月間300セットの受注を見込んでいます。このレンタル事業においては、オーモリとモリヤマの子会社2社が関東、中部、関西に在庫センターを構えており、8,500アイテム以上の在庫を有効活用していきます。

当期の国内売上高は510億円（前期比20%増）、営業利益は79億円（同155%増）となりました。この大きな要因は、国内自動車産業が好調に推移したことで、主要ユーザーである自動車メーカーからの需要が受注・生産を下支えたことによるものです。また、IT関連、家電関連からの需要も急伸しました。

●セグメント情報



■ 日本

トピックス

JIMTOF & インターモールド

2004年4月21日から4月24日にかけてINTERMOLD2004（第15回国際金型加工技術展）がインテックス大阪にて開催されました。「今、時代はさらなる超高速・超高精度へ」をテーマに掲げ、お客様の高能率加工、コスト削減に役立つ新技術の数々をご覧いただきました。

2004年11月1日から8日には東京ビッグサイトにおいて第22回日本国際工作機械見本市（通称JIMTOF）が開催されました。時代の最先端、超高能率・超高精度加工を実現するCBNエンドミル、高精度ボールエンドミルシリーズ、超深穴加工を実現する超硬油穴付きFXドリルを中心に展示を行いました。また、近年力を入れているモータースポーツへの取り組みをアピールするために、鈴鹿8時間耐久レースに参戦した実際のマシンを展示しました。

また、アメリカでの展示会IMTS、台湾金型展、ドイツでの展示会METAFなど、内外の展示会に積極的に参加し、OSGの製品群を世界中で紹介しています。



OFP創立30周年

オーエスジーのブラジル工場であるOFP社が2004年11月に30周年を迎えました。2004年11月18日には、取引先や関係者が出席して記念式展が行われました。南米の拠点として、更なる発展を目指します。



上海工場竣工式

2004年6月18日、中国上海市松江工業区の奥斯机（上海）精密工具有限公司にて竣工式が盛大に行われました。竣工式には、松江政府、上海外資投資委員会、松江区外資経済委員会、松江工業区管理委員会のお客様が約30名、中国に進出している日系の工作機械メーカー、工場建設関係者および工場運営関連企業等を合わせた約100名の方が参加しました。

上海工場では、超硬工具の生産と輸出を行い、世界一の品質と競争力を持つ生産基地を目指します。



SterlingDie,Inc社を設立

米国での工具需要の増加に対応するため Enpro Industries Inc.社から転造工具の製造部門を買収し、2004年6月に Sterling Die,Inc(SDI)を設立し、米州地区の最適地生産の強化を行いました。



LHスティックス

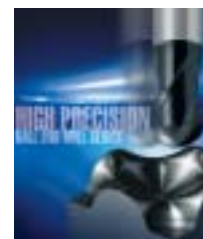
オーエスジーが特許を持つ超薄頭・高機能の超精密ねじマイクロ・スティックスの需要が急拡大しています。マイクロ・スティックスは、薄さに加え、締め付け時の浮き上がり現象「カムアウト」がないため、国内外のメーカーが生産する小型ハードディスクに採用され、1インチ以下のハードディスクではトップシェアです。小径ハードディスクは携帯型デジタル音楽プレイヤーにも採用され、今後も大きな成長が見込まれています。



●新製品

高精度ボールエンドミルシリーズ

世界初の振れ精度 $3\ \mu\text{m}$ 、R精度 $\pm 3\ \mu\text{m}$ を実現した「WXエクストラボールエンドミル（高精度ボールエンドミル）」は工作機械の高速・高能率・高精度化に伴う切削工具のニーズに対応しております。超超微粒子超硬+WXコーティングにより高速・長寿命を実現します。



IT部品加工用 転造タップ

VPニューロールタップ仕様の採用と、タップ谷部で盛り上がりをコントロールすることにより加工バリの無い高品質なタップ加工が可能になりIT部品の加工に最適です。



決算報告書

連結貸借対照表 (単位：百万円)	2004 平成16年 11月30日		2003 平成15年 11月30日	
	資産の部			負債の部
流動資産	37,455	33,007	流動負債	18,021 12,903
現金及び預金	6,269	4,752	支払手形及び買掛金	4,749 3,464
受取手形及び売掛金	13,772	11,609	短期借入金	3,266 1,956
有価証券	1	15	1年以内償還予定の社債	627 -
たな卸資産	15,069	14,300	1年以内返済予定の長期借入金	573 1,066
繰延税金資産	1,318	1,060	未払法人税等	3,006 1,320
その他	1,200	1,389	未払費用	4,578 4,081
貸倒引当金	△176	△120	繰延税金負債	- 1
固定資産	43,694	40,878	その他	1,220 1,013
有形固定資産	36,400	34,549	固定負債	18,009 19,648
建物及び構築物	10,575	9,762	社債	6,160 7,630
機械装置及び運搬具	13,718	13,678	長期借入金	7,675 7,879
土地	9,614	9,112	退職給付引当金	2,987 2,962
建設仮勘定	1,333	886	役員退職慰労引当金	306 308
その他	1,159	1,109	繰延税金負債	404 389
無形固定資産	1,309	807	その他	474 478
連結調整勘定	752	420		
その他	556	387	負債合計	36,030 32,551
投資その他の資産	5,984	5,521	少数株主持分	4,654 4,306
投資有価証券	3,458	3,068	資本の部	
出資金	90	115	資本金	10,404 10,404
長期貸付金	49	50	資本剰余金	12,333 12,084
繰延税金資産	1,197	1,239	利益剰余金	25,636 21,465
その他	1,460	1,351	その他有価証券評価差額金	737 494
貸倒引当金	△272	△304	為替換算調整勘定	△3,842 △4,039
			自己株式	△4,804 △3,381
			資本合計	40,464 37,028
資産合計	81,150	73,886	負債、少数株主持分及び資本合計	81,150 73,886

連結損益計算書 (単位：百万円)	2004	2003
	平成15年 12月1日から 平成16年 11月30日まで	平成14年 12月1日から 平成15年 11月30日まで
売上高	65,975	54,618
売上原価	40,807	34,499
売上総利益	25,168	20,118
販売費及び一般管理費	14,139	12,694
営業利益	11,029	7,424
営業外収益	530	552
受取利息	52	68
受取配当金	30	24
仕入割引	51	53
持分法による投資利益	138	12
その他	257	393
営業外費用	1,031	1,271
支払利息	200	300
売上割引	576	499
その他	254	472
経常利益	10,529	6,704
特別利益	55	545
固定資産売却益	34	154
投資有価証券売却益	5	319
その他	14	72
特別損失	272	603
固定資産除却損	148	221
固定資産売却損	28	88
投資有価証券評価損	0	3
その他	94	289
税金等調整前当期純利益	10,312	6,647
法人税、住民税及び事業税	4,474	2,116
法人税等調整額	△404	△493
少数株主利益	594	513
当期純利益	5,647	4,510

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)	2004	2003
	平成15年 12月1日から 平成16年 11月30日まで	平成14年 12月1日から 平成15年 11月30日まで
税金等調整前当期純利益	10,312	6,647
減価償却費	4,445	4,642
退職給付引当金の増減	14	△124
有価証券の評価損	0	3
売上債権の増減額	△1,727	△212
たな卸資産の増減額	△365	△1,184
仕入債務の増減額	1,013	778
その他	689	298
法人税等の支払額	△2,797	△1,610
営業活動キャッシュ・フロー	11,585	9,239
設備投資	△6,183	△3,284
子会社・関連会社株式の取得	△1,079	△592
その他	△234	1,357
投資活動キャッシュ・フロー	△7,496	△2,519
有利子負債の増減	542	△3,403
配当金の支払額	△1,394	△1,059
自己株式の取得	△2,018	△2,324
その他	0	344
財務活動キャッシュ・フロー	△2,870	△6,442
現金及び現金同等物に係る換算差額	114	△55
現金及び現金同等物の増加額	1,331	222
現金及び現金同等物の期首残高	4,638	4,407
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	141	8
現金及び現金同等物の期末残高	6,112	4,638

決算日	11月30日
定時株主総会	2月
株主確定基準日	(1) 定時株主総会、利益配当金 11月30日 (2) 中間配当金 5月31日 (3) その他必要があるときに、あらかじめ公告した一定の日
名義書換取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社名古屋支店 証券代行部 電話（代表）(052) 262-1520
名義書換取次所	中央三井信託銀行株式会社本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社本店及び全国各支店 (お知らせ) 住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。
公告掲載新聞	日本経済新聞 貸借対照表及び損益計算書の開示は、決算公告に代えて当社ホームページに掲載しております。 http://www.osg-ir.com/kessan/index.html
上場証券取引所	東京・名古屋両証券取引所
1単元の株式の数	100株



本 社 〒442-8543 愛知県豊川市本野ヶ原3-22
TEL (0533) 82-1111 FAX (0533) 82-1131
URL <http://www.osg.co.jp/>



当社は100%再生紙を使用しています